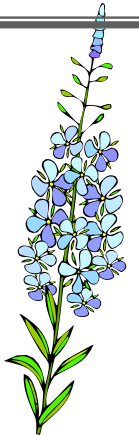


# キャビちゃんのちよつとい話 Vol.11

H17.12.1発行  
作成：スタッフ一同  
監修・発行：かだ動物クリニック  
tel 0944-56-7100  
fax 0944-56-7107

病院横の花壇に茂っている枝、これって何か皆さんご存知ですか？実はハーブ“ローズマリー”なんです。ご存知の方は「このすごいですね！」「少しわけてもらえますか？」なんて言われることも…。 “ローズマリー”は抗酸化成分があり、全身性のトニック(強壮)ハーブといえます。血行促進、食欲不振、肝機能の低下、神経性の頭痛などに用いられているようです。カフェやレストランのメニューとしてもハーブをよく見かけることもあり、親しみやすいものとなっているのではないのでしょうか？私たちだけでなく、家族の一員であるペットもハーブの力を借りて元気に過ごせると嬉しくないですか？毎日の生活の中に、ちょっと工夫!!例えば『水』ハーブティーを入れてみるなんてどうでしょう!!ただ、体質や体調、味の好みはそれぞれです。やっぱり合う合わないがあるので少しずつ試して様子を見てください。言葉が話せないペットだからこそ、注意深く気をつけて使ってあげたいものですね。



## わんこ・いゃんこ日記

○月 ×日

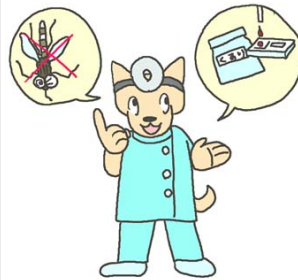
昨日 朝、目覚めるとわんこのトイレに 嘔吐？下痢？  
何だか分からない液体がありました。その中には小さな白いブツブツした物がたくさん。ピンとくるものがなく、おととい梨をあげていたので「梨かな？」とか…手作り食なので「何か合わなかったかなあ？」とか…。とりあえず、元気はあったので消化の良いものをあげて出勤しました。すると親から電話がかかってきて「レイ下痢よ。あれ生米。生米食べてる。」と…。 “普通、生米食べる？”とあきれながらも、これは飼主の失態です。何度も下痢をしたらしく、帰宅してみると“くたあ〜”として、うつろな我が子が居ました。今日は嘔吐をし、その後は逆にスッキリしたらしく、落ち着き、お薬を飲む事もなく治りました。大事には至らなかったけど、下痢や嘔吐の後に私を見つめるレイジーの目。たまらなくなりました。最近、異物を食べちゃいましたという患者さんが多いです。オモチャに化粧パフ、押しピン裁縫用の針etc. 何でこんな物!？と驚きの連続ですが、食べちゃうんです。何かあってからでは、やっぱり遅いんです。我が子の辛い顔を見たくないです…。



## フィラリア症予防薬

### 忘れずに投薬できましたか？

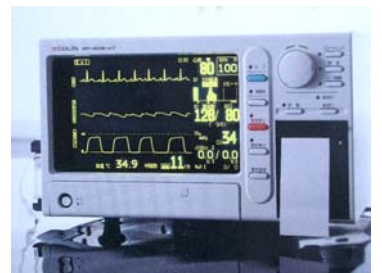
フィラリア症予防薬は、飲ませた後1ヶ月を予防する薬ではなく、**飲ませる前1ヶ月間に感染しているフィラリアを駆虫する薬**です。つまり最後は蚊を見なくなってから1ヶ月の間に投薬するものになります。数年前の資料に、この辺りでは11月中旬まで蚊の吸血が行われるとありました。年々暖かくなってきているので、今ではもう少し後まで蚊の吸血が行われているかもしれません。環境により変わってくると思いますが、**最低でも11月中旬以降に1回、投薬した方が良いでしょう。**フィラリアは感染しても数年は症状がありません。治療にも何年もかかり、治療の甲斐なく死亡するワンちゃんもたくさんいる怖い病気です。忘れず、きちんと予防してあげましょう。**来年は4月から5月頃から投薬開始**です。その前に今年の予防がきちんとできているかの確認のための**血液検査**をしてから投薬を開始します。万が一感染している犬に予防薬を投薬すると具合が悪くなり、回復に時間がかかる、または運悪く死亡するケースもあります。必ず検査を受けてから投薬してください。



## <<医療機器紹介>>

### 麻酔モニター

より安全な麻酔管理を行うために、術前の各種検査により麻酔中に起こりうる合併症やトラブルを予測、予防した上で、安全な麻酔薬を選択し、麻酔中は患者を注意深くモニタリングします。五感によるモニタリングは必須ですが、人の五感により知り得る情報には限界があるため、麻酔モニターによる詳細な情報から動物の状態の変化をより早期に察知します。



心臓は動いているか？その動きは規則正しいか？などの循環器系の状態や、呼吸しているか？換気は適切か？ガス交換に問題はないか？などの呼吸器系の状態を手術中、連続的に把握していきます。

また、吸入麻酔薬の濃度もより正確に知ることができると、動物の状態を総合的に判断した上で、適切な麻酔深度に維持することが可能です。

## 《病気シリーズ②》

### ―― 椎間板ヘルニア ――

＜椎間板ヘルニアとは？＞

椎間板に変性が生じ、椎間板やその内容物が脊柱管に突出することにより、脊髄を傷害しさまざまな神経症状を引き起こす疾患です。犬における椎間板の変性は、ダックスフンド、シーズー、ビーグルなどに多く、これらの犬種では若い時から急速に病態が進行する事もあります。その他の犬種では主に加齢に伴って進行します。また、猫においては、この病気の発生はごくまれにしかありません。

＜症状＞

椎間板が突出した位置や脊髄の傷害の程度によって、症状は様々です。軽度であれば突出部分の痛みや四肢もしくは後肢のしびれがあるため、頭を下げる、背中を丸める、動きたがらない、抱くと鳴く、フラフラと歩くなどの症状が現れます。重度になってくると傷害部位から後方の麻痺が起こるため、後肢を引きずる、寝たまま起き上がれない、自力での排便排尿困難などの症状が現れます。

＜治療＞

治療は内科的療法か外科的療法のどちらかを選択する事になります。内科的療法は主にステロイドを使用し、補助的にサプリメントなどを併用します。外科的療法を選択する場合はMRI検査が必要となります。MRI検査で手術適応と判断された場合のみ手術を行います。当院ではMRI検査および手術に関しては専門の病院を紹介しています。



12月といえば、そう「大掃除」。普段からきれいにしていれば、そんなに大変じゃないのに…と、よく言われますが、普段からそんなに細かい所まで掃除できないのが現実。特に小さな子供さんがいたり、ペットがいたりすると、掃除した後からすぐ汚してくれちゃいます。だからやっぱり、大掃除は大変なのです。ペットの汚れ、ペットの臭

いって、いつも生活していると麻痺しちゃうというか、よくわからなくなってしまいうんですよね。そんなに汚れていない、そんなに臭わないと思っても、ここは徹底してやってみよう！まずは、ワンちゃん・ネコちゃんの目線になってみよう！ほ～ら、普段は気がつかない汚れや臭いが気になりませんか？ヨダレの跡や隅にしびとく残る毛、どこからともなく臭ってくるオシッコの臭い。洗えるものは全て水洗いする。ケージやトイレなどは隅の汚れを、古くなった歯ブラシや綿棒などで丁寧に落としてね。ワンちゃん・ネコちゃんを使用しているタオルやクッションなどは洗濯機で洗う際に、酢を大さじ2杯程度入れて洗うと臭いもすっきり取れるそうですよ。フローリングや畳、壁の拭き掃除にはオレンジXがおすすめ。後に残るオレンジの香りがさわやか～。カーペットは古くなったスリッカーブラシで叩くように流れに逆らってブラッシングすると奥に絡まった

ペットの毛が取れる取れる！ペタンコにつぶれたカーペットにふわふわ感がよみがえりますよ。そして、最後にワンちゃん・ネコちゃんのお手入れ。冬は空気の乾燥から静電気が起きやすく、毛がすぐ汚れます。静電気防止のスプレーなどを使用し、こまめにブラッシングしてあげるとワンちゃん・ネコちゃんが汚れる事も、お部屋に毛が落ちることも防げます。静電気防止にはやはり適度に湿度を保つ事も大切。これは静電気防止だけでなく家族全員の病気予防のためにもなります。みんなで協力して、気持ちの良いお正月を迎えましょう。



## 《歯科シリーズ②》

### ―― 歯列について ――

#### 歯の萌出

犬と猫は二生歯性です(乳歯が永久歯に生え変わる)。一般に、乳歯は生後約1ヵ月半までに萌出し、永久歯への交換は約4ヵ月齢のはじめに切歯(前歯)から始まり、続いて犬歯、臼歯(奥歯)が交換されます。交換は7ヵ月齢までにほとんど完了するのが一般的です。

(※種や個体によって多少の相違はあります。)

#### 乳歯遺残

永久歯がすでに萌出しているにもかかわらず、その部位に乳歯が存在したままの状態のことを言います。トイ種や小型犬種でよくみられ、品種によって遺伝する傾向があることが知られています。

乳歯と永久歯が密に存在していることが多く、歯周病を進行させるほか、不正咬合を引き起こす(歯並びが悪くなる)可能性があります。

